

つばめ市議会

ノートブックを 学びに

長野県須坂市



浅井 洋子 委員長

私たちの広報はどうしても全体的に堅いイメージがしてきて、市民のみなさんが敬遠してしまう。市民に1ページでも多く見ていただきたいという思いがあります。

「ノートブック」は、皆さんが時間をかけて熱意を持ってつくっていらっしゃる。また、壁にぶつかっても議論をして進めていくところがとても素晴らしく、皆さんの熱い思いを感じました。真似をしたいのは、市民にどのように登場していただくかです。

須坂市 ミニ情報

長野県の北部に位置し、現在の人口は約5万1,600人。明治から昭和初期まで製糸業で栄え、蔵を生かした町並み、「日本の滝100選」にも選ばれた「不動滝」「権現滝」が有名です。また果樹栽培も盛んです。

堅いイメージを 変えていきたい

『市議会だより』などではなく『ノートブック』という表紙にインパクトがあって、そこに気を引かれて視察研修に伺いました」という須坂市の皆さんです。ノートブックの「市民の声」の編集に強い関心を持って質疑がありました。紙面は全ページがカラーで進んでいる須坂市ですが「紙面づくりで議員がどこまで関わるかが課題となっている」ということです。



ようこそ・燕市へ「手にとって・読んでもらえる・議会だより」を目指しましょう



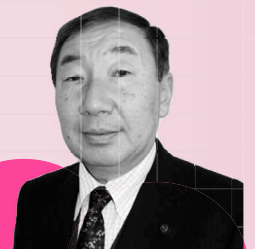
「ノートブック」という 名前に関心を持って

民間感覚を取り入れた「ノートブック」を直接手にとってみたいなと思い、視察先に選んだという千曲市の皆さん。「表紙は持ち回りで施設を紹介するように掲載していますが、もっと市民の気を引いて開いてもらえるようにすることが課題」とのこと。

今後、いかに自分たちが関わる議会だよりにしていくかをテーマに、意欲的な意見交換となりました。



長野県千曲市



森 義一郎 委員長

「議会だより」という堅いイメージですし、「写真は大事だ」と言われていましたが、その辺がなかなかわからず、それを学ばせてもらいたかったです。ノートブックは民間感覚で見やすいなと思いました。来年から18歳に選挙権が拡大される中で「見てみようかな」って思える点でアピールするものがありますね。

私たちもこれから気合を入れて取り組んでいきたいと思いました。

千曲市 ミニ情報

千曲市は、燕市を流れる信濃川の上流「千曲川」の中流域に位置し、2003年に1市2町が合併して誕生しました。現在の人口は約6万1,600人で「戸倉上山田温泉」が有名です。

議会報等特別委員会では、今回で11自治体の視察を受け入れました。

